

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	いきいきっ子クラブ国東（放課後等デイサービス事業）				公表日	2025年 2月
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		長期休暇などは、公園等に遊びに行くなど、双方に無理がいかないようにスペースの取り方を工夫している。もしくは異年齢の交流をするなどその日の目的をもって支援内容を組み立てている。	平日などは、十分なスペースは確保できるが、長期休暇になると、児童と放デイの利用児を一緒に受け入れることになるので、いつも利用しているスペースの取り方が難しくなっている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		適切である。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		その都度子ども遊びや活動に合わせて、スペースの取り方を工夫している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		心地よく利用できるように、清潔には心がけている。その日の活動スケジュールに合わせて、環境調整も行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別での対応、利用者がクールダウンやリラックスできる空間は、常に確保できるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		いつもスタッフ同士がお互いに支援内容のふりかえり、次の目標は何にするかについて常に話し合っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの意見を大切にし、改善に向けて、支援会議を設け、その都度対応している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員の意見を業務改善に向け、大切にしている。	いつでもお互いが、話し合える場を心がけているが、どの職員も意見でき、同じように理解できているか把握できる場は必要であるかもしれない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後の検討課題である。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		職員に向けて研修等受講できる機会を確保している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成、ホームページにて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		子どもの日頃の様子を観察したり、園での様子、家庭での様子を伺い、場合によっては保健師や医療機関からのアドバイスも受け、支援計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		日々の支援の様子等も職員間で意見交換しながら、共通理解したうえで、計画書の作成を行っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画書をもとに、支援内容を工夫し、目的をもって、支援活動を提供できるようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		形式にとらわれず、日々の子どもの様子を観察し、適切な支援を提供できるようにアセスメントしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		一人一人の子どもに合わせた、支援計画を立てられるように、子どもの観察、家庭状況、地域の資源なども相互的に考慮し、適切な支援を提供できるようにいつも心がけている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員間で話し合いながら、活動プログラムの立案を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		その日の反省を日々行ないながら、支援の工夫を行ない、子ども達へ活動を提供している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		常に集団でのコミュニケーション、個別の療育を組み合わせ、支援計画を立てるようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		常に、職員間で話し合っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		次の日になることもあるが、できるだけ支援終了後にその日の振り返りを行ない、次への支援につなげるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録を丁寧にとり、振り返り時、分かりやすいように工夫している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		職員間での定期的なモニタリング、保護者や関係機関とのモニタリングを行ない、適切な見直しができるようにしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		「4つの基本活動」を念頭に置き、組み合わせ活動を提供している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	○		子どもが、自分で決めることを大切に、情報提供・活動の提供を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		子どもの状況をよく理解したものが参加するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		地域で生活するためには、福祉関係、教育関係の共通理解や情報交換の場が必要である。その会議の場で、役割の確認も行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校とは直接的にやり取りしており、内容によっては、保護者や相談専門員と一緒に情報共有できるようにしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		各関係機関と、情報共有できるように努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		これから、そのような情報提供も行っていきたい。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		施設支援等で、外部の専門機関からアドバイスを受けるようにしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		他の放デイの子ども達との交流は行ってきた。子ども達や保護者からの希望があれば、今後も検討していきたい。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		法人内の相談専門員が参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や、モニタリング等で、話すようにはしているが、これからはもっと密にしていかなければならない。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアプロなどの研修、保護者会等で研修の機会などを設けてきた。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		子どもや保護者からの意見を大切に、サービスを提供できるようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画書の説明を行ない、保護者からの同意を受けるようにしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談があれば、必要な助言や支援を行なうようにしている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			今年度は、保護者同士の交流の場を設けたが、来年度からはきょうだい児の交流の場についても検討していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情があった場合には、迅速に対応していきたい。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			毎月のお便りの発行は行っている。日々の活動内容までは、発信できていないので、今後の検討課題ではある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いには、十分に留意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		配慮しているが、保護者の立場で、もっと配慮の必要な部分があれば、改善していきたい。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		今年も秀溪まつりを実施し、地域の方々との交流の場を設け、開かれた事業運営を図れるように努めている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			マニュアルを作成し訓練等も実施しているが、発信不足だったので、お便りやホームページなどを利用して、保護者の方へのも丁寧に、発信していきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		法人内で委員会を設け、常に会議、訓練等を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		確認し、対応している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アセスメント時に確認し、対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		法人内で、委員会を持ち、研修等を行い、外部の研修等への参加も行い必要な措置を講じて、支援を実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		保護者の連絡先の再度確認、ホームページやお便り等で安全計画に基づく取り組み内容について周知を行なう必要がある。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事業所内でヒヤリハットを共有し、同じ事故を起こさないように検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		法人内で委員会を設け、講師を呼んで、虐待防止に関する研修会等を開催し、適切な対応ができるよう心掛けた。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束がどのような場合発生してしまうのかを検討し、それにあたる場合は計画書に記載するようになっている。		